



第5回びわコミ会議を開催しました！

マザーレイクフォーラムでは、**みんなで琵琶湖の現状や将来について話し合うため、毎年8月頃に「びわコミ会議」を開催しています。**びわコミの「びわ」は琵琶湖を指し、「コミ」は英語のコミュニティ（地域）、コミュニケーション（対話）、コミットメント（約束）の頭文字を指しています。市民団体や企業、行政、大学生、子どもたちなどの多様なメンバーが、200名程度参加する大交流会となっています。平成27年8月22日にはこの第5回が開催されましたので、概要をご報告します。

午前は「みんなつながる報告会」と題して、まず**参加団体による5つの活動発表**が行われました。長浜土木事務所木之本支所からは、オオサンショウウオに配慮して砂防ダムを改築・撤去した取り組みなどが紹介されました。続いて琵琶湖政策課からは、**びわ湖の最新情報「びわ湖なう」**が発表され、水質などが改善傾向にある一方で魚介類など生態系全体への影響が懸念されることが、様々なデータを用いて紹介されました。

午後は「びわ湖のこれから話さへん？」と題して、**14のグループに分かれての少人数によるディスカッション**が行われました。「びわ湖と食べ物」「びわ湖とデザイン」「琵琶湖流域と水害」「びわ湖と豊かな社会」など、様々なテーマが設定され、参加者は好きなグループで交流と対話を楽しみながら、課題や方向性について話し合っていました。最後に参加者全員が「私のコミットメント（約束）」を掲げ、これから一年間に実施していきたいことを誓い合いました。



午前の発表



午後のグループ討論



私のコミットメント発表

マザーレイクフォーラム運営委員会委員より一言

「マザーレイクフォーラムが市民主導で動いている理由は？」

マザーレイクフォーラムの一つの特徴は、その運営が市民主導で行われている点にあります。マザーレイク21計画（第2期）に描かれた琵琶湖流域の将来像は、様々な所属・経験を持つ人たちが何度も話し合った結果として生み出されました。振り返ればこのマザーレイクフォーラムは、元となる計画を徹底した市民参画のもと作成した、つまりプロセスを共有した結果として、「自分たちで進行管理していこう」という意識が芽生えたのだと思っています。（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 佐藤祐一）

